

政 務 活 動 一 覧

議員名： 浜田 一哉

年月日	活動先			政務活動の内容	関連領収書 番号
	住所	活動先の名称	対応者		
5月12日	鳥取市	議会棟	コロナ感染症 対策本部	現状と今後の取組につ いて	505
5月18日	鳥取市	議会棟	県執行部	政務調査会（5月定例会 に提出予定の主要事業に ついて）	507
9月5日	鳥取市	議会棟	県執行部	政務調査会（9月定例会 に提出予定の主要事業に ついて）	902
11月8日	東京都	衆議院第1会館	国土交通省、地 元選出国會議 員他	中国横断自動車道岡山米 子線整備促進総決起大会	1011, 1102, 1103, 1104
11月8日	青森市	三内丸山遺跡セ ンター	センター副所 長、県担当者	三内丸山遺跡、三内丸山 遺跡センター概要説明、 現地視察	1105, 1106, 1107
11月9日	青森県上北郡 六ヶ所村	原子燃料サイク ル施設等現地調 査	日本原燃平木 常務、環境科学 技術研究所他	原子燃料サイクル再処理 事業等、現状の取り組み や進捗状況等について	1108
11月10日	八戸市	八戸市民団体と の意見交換	八戸地域社会 研究会高橋代 表、八戸市水産 事務所長他	今後の水産業の振興、特 に養殖業の可能性につ いて	1108
11月10日	八戸市	八戸漁港	県三八水産事 務所副所長他、 市水産事務所 担当者他	八戸漁港の概要につ いて、魚市場及び高度衛生 管理型荷さばき施設の概 要（現地調査を含む）	1108
11月17日	鳥取市	議会棟	県執行部	政務調査会（11月定例会 に提出予定の主要事業に ついて）	1115
11月22日	境港市	みなとテラス	境港市	1月4日開催予定の境港 市新春の集い会費	1116
1月26日	鳥取市	議会棟	県執行部	政務調査会（2月定例会 に提出予定の主要事業に ついて）	109

活動報告（県外・国外）

議員名： 浜田一哉

活動事項	中国横断自動車道岡山米子線（蒜線 IC～境港間）整備促進総決起大会
活動年月日	令和4年11月8日
場 所	衆議院第1会館
活動の相手方	津島国土交通部長（代理）、地元選出国會議員、佐々木道路局次長、橋本高速道路課長他国土交通省職員、西日本高速道路（株）後藤常務執行役員、真執行役員中国支社長、日本高速道路保有・債務返済機構森本理事他
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国横断自動車道岡山米子線（蒜山～境港間）整備促進総決起大会への参加 ・要望書の提出 <p>【内容】</p> <p>中国横断自動車道岡山米子線4車線化促進鳥取県議会議員連盟の一員として、また境港管理組合議長として決起大会に参加し、以下の通り国に要望した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国横断自動車道岡山米子線（米子 IC～境港間）の早期事業化 ・事業が凍結されている米子 IC～米子北 IC 間の解除 ・令和5年度予算に、米子 IC～境港間の事業化に向けた調査費の計上 <p>【結果（成果）等】</p> <p>今年は、コロナの影響もあり3年ぶりに同決起大会が開催され、米子 IC から境港間の高規格道路延伸について、その必要性について国に対して訴えた。</p> <p>今回の大会でも、関係する陶山南部町長並びに境港商工会議所三輪副会頭から安全性や定時制、事業効果、緊急災害時の避難路として、その必要性について発表された。</p> <p>今後についても、こうした活動を通して、事業化促進に向けてさらに訴えていくべきである。</p>
関連領収書番号	1011、1102、1103、1104

活動報告（県外・国外）

議員名：浜田一哉

活動事項	三内丸山遺跡現地調査
活動年月日	令和4年11月8日
場所	三内丸山遺跡センター
活動の相手方	小関副所長、格谷総務課長、川嶋世界文化遺産課長、小笠原保存活用課長
活動の目的	三内丸山遺跡・三内丸山遺跡センターの概要について（現地視察含む）
活動の内容	三内丸山遺跡センター現地視察（内外部とも）を行った後に各担当者から遺跡発掘の背景やセンターの利活用状況、取り組み状況等について詳細な説明を受けた。
活動の結果等	<p>三内丸山遺跡は、平成4年から発掘調査が行われ、縄文時代前期～中期（紀元前約3,900年～2,200年）の大規模な集落跡が発見された。屋外には、多くの竪穴建物跡や掘立柱建物跡、盛り土や墓などのほか、多量の土器や石器、木製品、骨角製品などが出土した。青森県は、遺跡の重要性から平成6年に遺跡保存を決定。平成7年から遺跡の整備と公開を行い、平成12年11月に特別史跡に、平成15年5月には出土品1,958点が重要文化財に指定された。また、令和3年7月には、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録となった。</p> <p>屋外に復元された大型掘立柱建物や大型竪穴建物は、特に象徴的な復元建造物であり、栗の木を使って建造されている。また、発掘された柱などは、現物がセンターに展示されている。これらの建造物が何の目的で造られたものなのか想像力がかき立てられる。</p> <p>本県では、今まさに、「青谷かみじち史跡公園」が令和5年秋完成に向け工事中であり、オープンに向けた様々な取り組みがなされている。センターでは、発掘された多くの土器などの復元作業状況を直接見ることができ、とても興味深く観覧できた。こうした取り組み等を参考にしながら、国史跡青谷上寺地遺跡の魅力を最大限に表現できるような史跡公園になるよう提案したい。</p>
関連領収書番号	1105、1106、1107

活動報告（県外・国外）

議員名： 浜田一哉

活動事項	原子燃料サイクル施設等現地調査
活動年月日	令和4年11月9日
場所	青森県上北郡六ヶ所村 日本原燃(株)PR館、濃縮工場、低レベル埋設地、ポンプ車・ホイールローダー・電源車等、再処理展示コーナー、高レベル管理施設、安全対策工事現場等
活動の相手方	日本原燃(株)平木常務、大田副本部長、吉田副本部長、山田フェロー、環境科学技術研究所吉田特任相談役、植田部長、竹内理事他
活動の目的	原子燃料サイクル再処理事業等、現状の取り組みや進捗状況等について現況を調査する。
活動の内容	日本原燃のサイクル事業のうち、濃縮事業、埋設事業、再処理事業、廃棄物管理事業、MOX燃料加工事業の5事業をそれぞれの施設や車中において担当者から説明を受け、その都度質疑応答、意見交換を行う。
活動の結果等	<p>島根原子力発電所は、境港市および米子市はいずれもUPZ圏内に位置しており、島根原発1号機の核燃料の処分や2号機の再稼働については、再処理工場の完成や核燃料のサイクル事業等は解決すべき大変重要な課題であると考えている。そうした中、2022年9月には再処理工場の年度内竣工の延期が発表された。時期については今年度中に公表したいとのことである。</p> <p>安全性向上対策工事については概ね完了の見込みであるが、コロナ情勢の影響により、半導体などの工事に必要な部品の調達が困難な状況にあり、火災感知器や情報把握計測設備の設置工事と審査を踏まえ新たに追加された地下水排水設備や換気筒の耐震補強工事等が残工事としてあるとのこと。まさに今11月中に認可申請する計画で進めているとのこと。</p> <p>現状において、安定的な電力量を確保するためには、原子力発電にその約2割を委ねることが必要であると考えている。燃油の高騰により電気料の大幅な値上げは国民生活を圧迫する大きな要因となっている。事業者側からは、電力会社を含めて規制庁の審査基準が必要以上に厳しくなっているのではといった意見も聞く。安全対策は重要であるが、必要な安全基準についてはさらに政府との協議が必要ではないかと感じた。UPZ圏内に住む一人として、今後も動向に注視したい。</p>
関連領収書番号	1108

活動報告（県外・国外）

議員名：浜田一哉

活動事項	八戸市民団体との意見交換
活動年月日	令和4年11月10日
場所	青い森信用金庫 本店営業部
活動の相手方	八戸地域社会研究会高橋会長、八戸市水産事務所長、八戸自由大学畑中代表他
活動の目的	これからの水産業について、どう展開をしていくか現状の課題と展望について
活動の内容	それぞれの立場から、現状の取り組みについて紹介する。漁獲量が制限され、また減少傾向にある中で、今後の水産業の振興、特に養殖業の可能性について街づくりの観点から意見交換を行う。
活動の結果等	<p>境港と八戸港はいずれも国の重要漁港である特定第三種漁港に指定されており、以前から関わりの深い漁港である。</p> <p>八戸漁港の水揚げは昭和60年代をピークに減少を続けており、現在は5万トンを超える危機的状況となっている。その要因となっているのが主要魚種であるマサバとスルメイカの極端な減少にあるとのこと。新たに就任した熊谷八戸市長は、選挙公約の一つに水産業の復活を掲げ、様々な水産業の振興施策を図っていくとのことである。</p> <p>しかしながら、八戸市は東北新幹線発着の駅や2路線の高速道路を有しており、うらやむほどのインフラが整備されている。こうした背景を鑑みれば養殖事業やスマート漁業は今後の可能性を大いに秘めているものと考えられる。スマート漁業については、産学官の取り組みが始まり、今後期待しているとのことである。今後お互いに情報提供をしていくことで一致した。</p> <p>本県の養殖については、今後大いに期待するところであるが、特に陸上養殖について、莫大な初期投資がかかること、加えて一朝一夕に安定した実績を上げることが困難なために着手できない現状があることから、国に対してハード事業も支援する制度ができないか模索していきたいと思う。</p>
関連領収書番号	1108

活動報告（県外・国外）

議員名：浜田一哉

活動事項	八戸漁港現地調査
活動年月日	令和4年11月10日
場所	高度衛生管理型荷さばき施設
活動の相手方	青森県地域農林水産部三八地方水産事務所原副所長、同山崎技師、同登嶋建設課長、八戸市水産事務所流通加工振興グループ中里主事、同漁業振興グループ十文字主事、千葉主幹
活動の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸漁港の概要について ・八戸漁港の魚市場、高度衛生管理型荷さばき施設の概要について（魚市場視察を含む）
活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸漁港における港勢や主要な陸揚げ岸壁の概要、水産物供給基盤機能保全事業の概要について ・八戸のまちなりたち ・八戸漁港における各荷さばき所の概要について ・八戸の漁業の特徴について ・水産業の振興対策について 意見交換および現地視察
活動の結果等	<p>八戸漁港は、東日本大震災で他県同様甚大な被害を受けたが、令和元年度までに主要な岸壁の耐震工事を完了したとのこと。流通基盤整備事業としてカーボンストック工法（丸太打設工法）を用い、液状化対策がなされた。漁業の盛んな八戸市では、市内各所で朝市が開催されているとのことで、朝早くから銭湯が営業しており、朝が早い文化は八戸の特長であるとのこと。人口の集積やインフラも整っていることから、水産業、特に養殖について今後さらに強化したいとのこと。</p> <p>養殖の取り組みについては、海の特徴から海面養殖は適さないため、陸上養殖を模索中であり、鳥取県にも現地調査に来られたとの話を伺った。そうした中で、八戸水産アカデミーを立ち上げ産・学・官・金・異業種等様々な分野の団体が参画し、長期的な展望を見据えながら学び、幅広く水産業の再興を目指す取り組みをしているとのこと。この取り組みは本県でも参考になる事例ではないかと思う。</p> <p>また、ブランド化についても令和2年度から八戸市水産物ブランド戦略会議を立ち上げ、翌年度には八戸市水産加工試作品製造支援事業補助制度を施行し、八戸市水産物ブランド認証制度も施行されている。そうした取り組みの中で生まれた物の一つが「八戸前沖さば」である。水産、観光、飲食業界が一体となったブランド化に向けた取り組みは本県においても見習うべき取り組みである。</p>
関連領収書番号	1108、1111、1112、1110